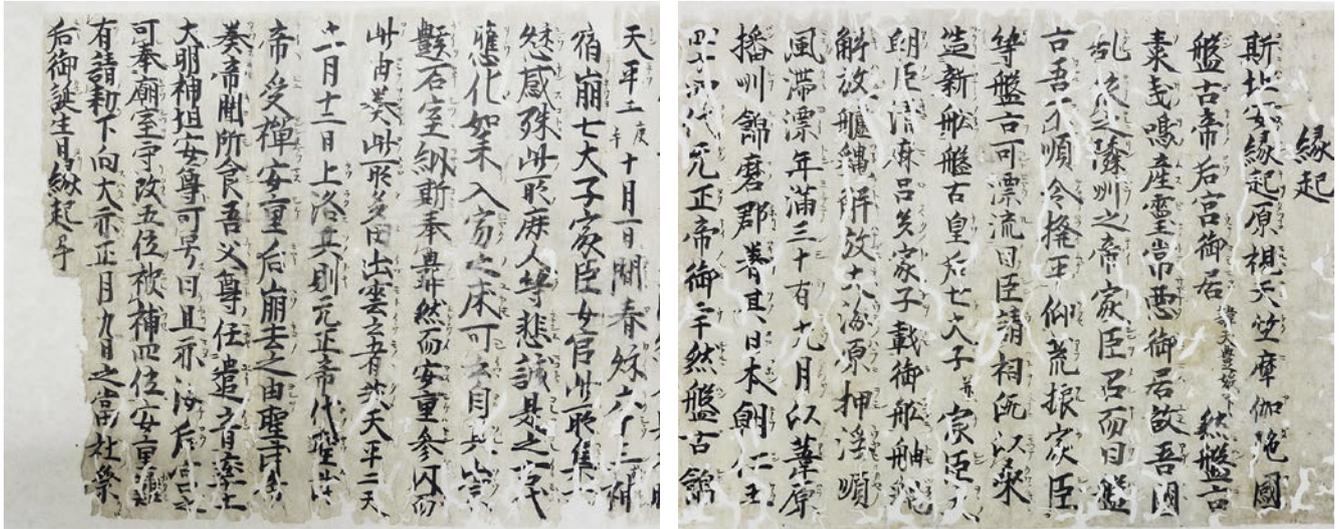


- 所在地：神納3382
(市郷土博物館保管)
- 所有者：率土神社



この縁起は、率土神社の祭神埴安姫はにやすひめの由来と、正月の社祭の起源を述べたものです。江戸時代初期頃の写本とされ、書体・片仮名の字体から、その原本は室町時代に書かれたものと推定されます。

遠く天竺の摩伽陀國まかたこくを追われた埴安姫が日本に流れ着き、神納に移り住む様子が記されています。異国の神様を祀る神社は国内でも珍しいとされています。

縦28cm、横2mの卷子1巻で構成されます。平成19年（2006）に修復しています。



率土神社拝殿

率土神社本殿は、棟札によると延宝6年（1678）、大工鶴屋惣右衛門により建てられたことがわかっています。建物の彫刻を見ると、向拝の臺股の表現や、向拝木鼻や手挟みにつけられた渦の表現からも、江戸時代前期の手法であることがわかります。拝殿は、19世紀の前期の建築と推定されています。